

平成29年度 大阪教育大学「学生表彰」学生業績

学長表彰（2名）

○石井 孝典（イシイ コウスケ）教養学科 スポーツ専攻

【業績概要】

平泳ぎの選手として、今年度の日本学生選手権での決勝進出をはじめ、日本選手権（25m）水泳競技大会/FINA スイミングワールドカップ2016 東京大会やジャパンオープン2017（200m）においてB決勝に進出する等、水泳選手として素晴らしい成績を残した。

【2016年度】

- ・日本学生選手権 200m 平泳ぎ B決勝2位（全体10位）
- ・日本選手権（25m）200m 平泳ぎ 決勝3位（日本選手10位）

【2017年度】

- ・日本学生選手権 200m 平泳ぎ 決勝6位
100m 平泳ぎ B決勝5位（全体13位）
- ・ジャパンオープン 200m 平泳ぎ B決勝3位（全体11位）

○宇野 史織（ウノ シオリ）教養学科 スポーツ専攻

【業績概要】

第2回U-22 東アジアハンドボール選手権大会2014の日本代表に選ばれ、第2位の成績をおさめた。さらに、2016年では西日本インカレで優秀選手賞に選ばれ、2017年では全日本学生選手権大会（インカレ）において、チームを準優勝に導くとともに、優秀選手賞を受賞するなど、在学中、課外活動において特に顕著な成果をおさめた。

学長特別表彰（2名2団体）

○赤嶺 梨緒（アカミネ リオ）教養学科 スポーツ専攻 2回生

【業績概要】

自由形の選手として、日本学生選手権水泳競技大会において決勝に進出する等、水泳選手として素晴らしい成績を残した。

- ・日本学生選手権 800m 自由形 決勝6位

○井坂 行紀（イサカ ユキノリ）教養学科 文化研究専攻 2回生

【業績概要】

TOEFL ITP テスト（2018年2月実施）で満点を獲得した。

○女子ハンドボール部 <代表者>杜氏 千紘（トウジ チヒロ）

【業績概要】

2017年西日本学生ハンドボール選手権大会で準優勝、全日本学生ハンドボール選手権大会（インターカレッジ）で準優勝をおさめる。

全日本学生連盟の推薦で日本選手権大会に出場し、ベスト16に入賞するなど、課外活動において特に顕著な成果をおさめた。

○障がい学生修学支援ルーム学生スタッフ

<代表者>内田 朋美 (ウチダ トモミ)

【業績概要】

障がい学生修学支援ルーム学生スタッフは、障がい学生支援に係る(1)自主研修の企画実施、(2)広報活動、(3)学内及び他大学学生等交流会企画実施参加、(4)支援機器活用の検討、(5)学生会議の実施等の取り組みを主体的に推進し、自らの資質向上に励むとともに、本学における障がい学生支援の充実に多大なる貢献をしてきました。

なお、これらの功績は対外的にも評価されることとなり、平成29年10月29日日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク主催「第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」内「実践事例コンテスト」で『PEP Net-Japan 賞(最優秀賞)』を受賞しました。(5年連続の入賞)

この学生らは、本学を卒業・修了以降、教員その他社会人として、障がい者への理解啓発に関し、中心的な役割を果たすリーダーとして寄与できることが十分に期待できます。

学生支援実施委員会奨励賞(1名)

○豊川 真礼 (トヨカワ マアヤ) 教育学研究科 英語教育専攻

【業績概要】

学部時代(2014年8月~2015年6月)に韓国の梨花女子大学への交換留学を経験しており、その際に習得した韓国語を活かして、大学院時代には、本学への留学生やソウル教育大インターンシップ生、UNCW訪問団のチューターなどとして活躍した。また、オープンキャンパスや交換留学希望者説明会等において、自身の留学体験を高校生や後輩に伝えたり、本学ホームページやパンフレット(2016年度版及び2017年度版)にも留学体験談が掲載されたりするなど、本学の交換留学制度のPR活動に貢献した。

活躍の場は学内に留まらず、JASSO(日本学生支援機構)主催の「平成28年度海外留学説明会(大阪)」(2016年11月19日)では、留学経験者3名のうちの一人として、パネルトークに参加した。また、「なら国際映画祭」(2016年9月17日~22日)では、語学力を生かして国内外の有名映画監督や俳優のアテンドとして活躍した。

修士論文のテーマは、「日本と韓国の英語教育における教員の意識比較調査」であり、専門である英語教育についての見聞を深めるため、2016年度にはカナダのヴィクトリア大学での海外研修に参加し、TEFL(Teaching English as a Foreign Language)を取得した。

2017年2月にはシンガポールの南洋理工国立教育学院への教育実習プログラムに第1期生として参加した。また、海外教育実習体験(台湾)プロジェクトにも参加し、V期生α班のリーダーとしてグループを引っ張り、日本・台湾の小学校での計6時間の相互の異文化交流の授業を実現した。

語学力を生かしたボランティア活動のみならず、英語教育の知識や実践力を高めるために精力的に活動した正課・課外を含めたこれらの業績は、他の学生の範となるものである。